



救急外来におけるトリアージナーズのストレスサー 尺度開発とその信頼性及び妥当性の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-09-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野島, 敬祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005488

救急外来におけるトリアージナーズのストレス尺度開発と その信頼性及び妥当性の検討

療養支援看護学領域 急性療養看護学分野

3120601003

野島敬祐

要 約

【研究目的】 トリアージナーズは、救急外来受診患者のトリアージ判定、外来のマネジメント、家族への対応などを一人で行わなければならない、特有のストレスを抱えている。そのストレスを把握し、ストレスを生じさせている環境を改善するための支援へと繋げることは、トリアージナーズの疲弊を予防し、適切なトリアージ判断や質の高い看護の提供のためには不可欠である。そのため、本研究では、救急外来におけるトリアージナーズのストレス尺度を開発することを目的とする。

【研究方法】 本研究は以下の2段階で進めた。

1. トリアージナーズのストレスの実態からの尺度原案の作成（予備研究）

救急外来で勤務するトリアージナーズ15名にインタビューを実施し、トリアージを行う際のストレス内容を調査した。その結果に基づき、尺度原案を作成した（調査期間：平成25年8月～平成26年4月）。

2. トリアージナーズのストレス尺度の信頼性・妥当性の検証（本研究）

本研究1：表面妥当性の検証

尺度開発に精通した看護学研究者1名と臨床経験10年程度のトリアージナーズ4名で構成された合計5名に対し、フォーカスグループインタビューを実施し、表面妥当性を検証した（調査期間：平成26年7月～8月）。

本研究2：構成概念妥当性・内的一貫性・基準関連妥当性・安定性の検証

全国の救命救急センターで勤務するトリアージナーズ900名に対し、質問紙を郵送した。調査内容は、研究協力者の属性8項目、トリアージナーズのストレス尺度87項目、臨床看護職者のストレス尺度（NJSS）33項目、Stress Response Scacle-18（SRS-18）の18項目の合計146項目とした。得られた回答の項目分析、探索的因子分析、既知グループ法により構成概念妥当性を検証した。次に、Cronbach's α 係数により内的一貫性を、NJSSとSRS-18との相関分析により基準関連妥当性を、再テスト法により安定性を検証した（調査期間：平成26年10月～12月）。なお、本研究は、大阪府立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会（承認番号26-24/26-36）の承認を得た。

【結果】 予備研究ではトリアージナーズのストレス内容として、トリアージの判断に伴うプレッシャー、周囲のトリアージに対する理解の不足、救急外来の構造や設備、トリアージの困難さ、トリアージに必要な能力の不足、患者や家族との対応、業務に追われる

忙しき、スタッフとの連携不足、トリアージナースへの支援が不十分の9つのカテゴリーが抽出され、それに基づき、尺度原案を作成した。本研究1では、類似した質問項目の整理、質問項目と概念の一致、表現の修正を行い、最終的に87項目の質問項目とした。本研究2では、363名の回答に基づき、87項目の因子分析を行った結果、トリアージの能力不足、多忙なトリアージ業務、説明に理解が得られない患者、待たせている患者の訴え、トリアージ能力を高める支援の5因子44項目で構成されるストレス尺度を作成した。また、既知グループ法により、仮説1「救急看護師経験年数が3年未満の看護師は、3年以上の看護師よりもストレス得点が高い」は $p=0.043$ 、仮説2「トリアージナース経験が1年未満の看護師は、1年以上の看護師よりもストレス得点が高い」は $p=0.039$ で共に有意差を認め、支持された。内的一貫性では、Cronbach's α 係数は0.93であった。基準関連妥当性では、トリアージナースのストレス得点とSRS-18の間では $r=.409$ ($p<0.01$)、NJSSの間では $r=.410$ ($p<0.01$)の相関がみられた。安定性では、37名の回答に基づく再テスト法を行い、1回目と2回目のストレス得点の間で $r=0.457$ ($p<0.01$)、各因子間では $r=0.335\sim 0.518$ の相関がみられた。

【考察】本尺度はCronbach's α 係数が高いこと、再テスト法では対象者数の限界があるものの、すべての因子間で中程度の相関がみられ、内的一貫性、安定性はある程度確認された。また、因子分析では予備研究で見出されたストレス内容とほぼ一致する5因子が抽出され、既知グループ法の仮説が検証されたことで構成概念妥当性確認され、さらに、本尺度とSRS-18、NJSSの総得点は共に正の相関があり、基準関連妥当性が確認された。本尺度の信頼性・妥当性が概ね検証できたと考える。

本尺度は様々な地域や病院のトリアージナースからのインタビューを行い、施設や地域に偏りなく、尺度原案を作成している。トリアージに求められる高い能力や医師の診察の前に患者や家族に問診をする特殊な仕事から生じるストレスに関する内容が含まれている点からも、既存のストレス尺度とは異なり、我が国のトリアージナースのストレスの状況を反映した尺度であるといえる。

救急看護師経験年数やトリアージナース経験年数が浅いトリアージナースはストレスをより強く感じており、経験の浅いトリアージナースへの教育方法の検討や評価への活用が急務である。また、トリアージナースのストレスそのものに影響する要因を明らかにし、ストレスを生じさせない支援策を検討することができると考える。

キーワード：トリアージナース ストレス ストレス 救急外来